

# わがまち

## 第18号

発行 わがまち大田蒲田西地区推進委員会  
編集 地域情報紙編集委員会

### わがまちの顔 老舗サイトー工芸 齋藤勲さん



今回は蒲田西口町会で、長年にわたり副会長を勤められたサイトー工芸の齋藤勲さんを訪ねました。

サイトー工芸は、先代が大正九年川崎で和傘商を開業されましたが、関東大震災に被災されて、品川区荏原で再度開店しました。その後、昭和十年に現在の蒲田西口に移られて、現在に至ります。

その後、勲さんが提灯業を勉強され、東京提灯組合連合会長として、長期にわたり活躍なさいました。その組合が盛んなころは沢山の同業者があつたのですが、現在では蒲田での提灯店は二店のみ、なんともう一つの店は雑色で営業されている弟さんの店なのです。

主な仕事である提灯は岐阜や水戸で作られたものを取り寄せ、それに大小沢山の筆と特殊な墨を使って、仕上げていく仕事です。

注文は商店等の開店、売出し、盆踊り、お祭などの提灯です。

又、時計等の記念品の文字入れ等の沢山の注文もありました。その他に赤ちゃんの命名からお墓まで、まさに、ゆりかごから墓場まで文字にかかわる仕事です。

勿論、昔は賞状は全て手書きでしたので、賞状も数多く書いたそうです。

デコボコした提灯に書くことは大変難しく常に気持ちを集めて書くのですが、書き損ずれば新しい提灯でやり直しとなるので、大変神経をつかうそうです。

厳しい勉強のもとでの努力の積み重ねのお陰で、勲さんは小学生の頃から書画には秀でていました。昭和七年、十一歳の時には、書道院より賞状を戴くほどでした。だから、いまの老舗サイトー工芸があるのです。時代の流れで提灯も昔の日本紙（油紙）から今ではビニールと

変わり破けることもなくなりました。時代の移り変わりで、業者が少なくなることを憂いておられました。

言葉数は少なかつたけれど、自分が一生を通してやってきた書入れに自負と誇りが感じられました。

齋藤さんは近頃、少々体調を崩されており、その中をお願いしての取材でした。

七十年守り続けて来た日本の数少ない伝統的仕事が少しでも長く続けられるように、いつまでもお元気でと心から願って取材を終えました。

(取材 石渡・柏村・柳通委員)



齋藤さんの作品

「特集多摩川そのⅤ」

## 多摩川、護岸工事

### 暮らしの中に生きる川

世田谷区との区境である田園調布五丁目から、河口の羽田空港で東京湾と出会い、最後の旅を終えるまで、およそ十五キロメートルにわたって区内を流れる多摩川。私たちの蒲田西部地区でも、多摩川大橋からトミンタワーまでの七〇〇メートル余り、多摩川二丁目町会とトミン多摩川二丁目自治会が多摩川に面しています。

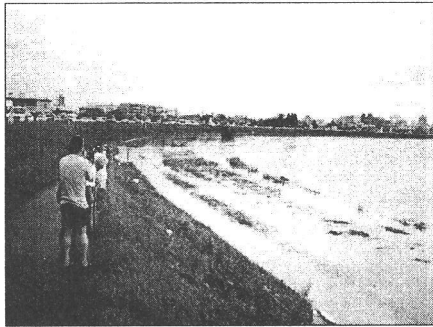
### 暴れ多摩川

「母なる川」という言葉があるように、川は私たちの生活に豊かな恵みをもたらしてくれま

こともあります。昭和四十九年の台風十六号による狛江水害で、住宅が流されていく様子がTVに映し出され、衝撃を受けた方も多いのではないのでしょうか。

### 現在の土手はいつ作られたの？

多摩川は、かつて何度となく氾濫し、大災害をもたらしました。とくに西六郷二丁目の古川



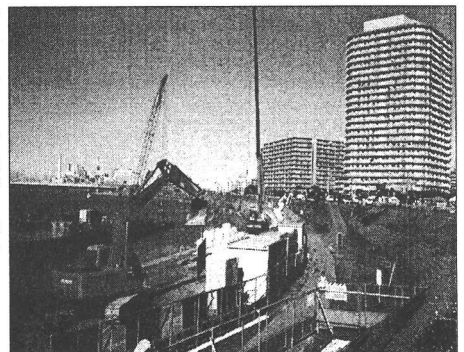
高水護岸（土手）に迫る浸水

### 新しい河川法では

薬師（安養寺）付近は、流れが大きく湾曲しているため、たびたび堤防が決壊しました。明治四十年、明治四十三年の大洪水は「京浜間、海と化す」と報じられたほどのものすごさでした。その後、大正七年から多摩川下流域の改修工事が始められ、途中、関東大震災による堤防亀裂などもありましたが、昭和八年によりやく完成しました。現在ある堤防はその時に築かれたもので、それ以降、下流域での災害は激減しました。この時の治水記念碑は、田園調布一丁目にある浅間神社の前に、多摩川を見下ろすように建っています。

平成九年に河川法が一部改正され、それまでの「治水」、  
「利水」に加えて、新たに「環境」の整備と「保全」が明文化されました。さらに、河川整備計画に地域住民の意見や要望を反映させる手続きが導入されました。それに基づいて平成十三年には「多摩川水系河川整備計画」が策定されています。

### 始まった改修工事



工事の様子、右手はトミンタワー

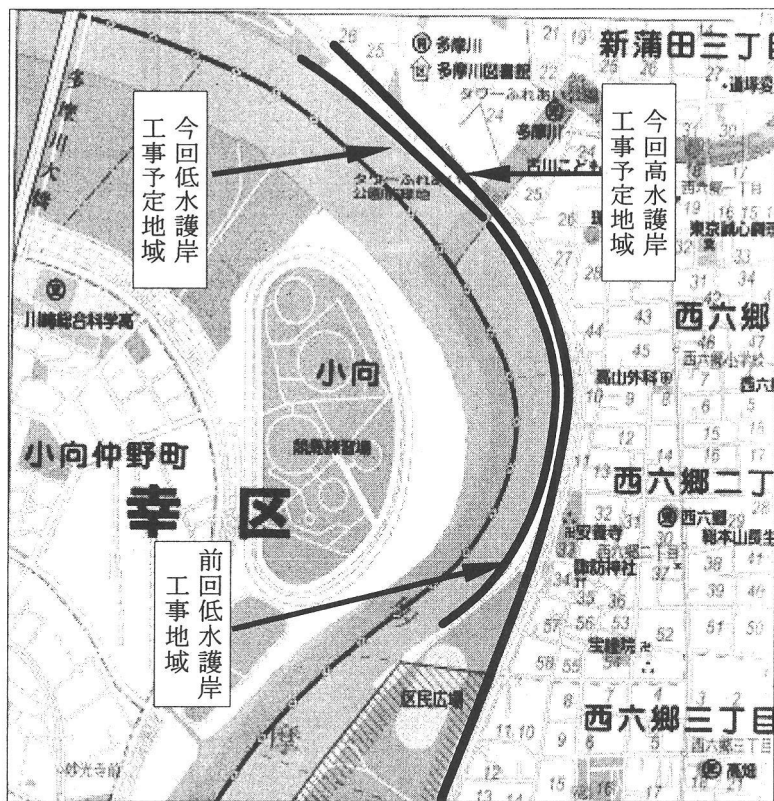
その多摩川で、ちょうど一年前から河川改修工事が行われておます。二百年に一度という台風や大雨に見舞われても氾濫しないように、堤防を改修、強化するのが目的です。工事区間は、西六郷三丁目から多摩川二丁目のヤマハボート付近までとなっています。

今年の五月までに西六郷地区の低水護岸（通常の流量時に水と接している川岸）工事は完成し、河川敷がだいぶ広くなりました。梅雨から台風シーズンにかけての増水期間中は工事をストップしていましたが、この十月から再開されています。

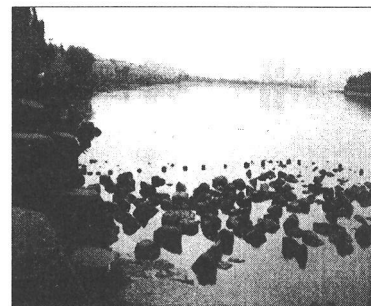
## 工事が完成するころ

今回の工事は多摩川二丁目目の低水護岸工事と、西六郷三丁目から多摩川二丁目にかけての高水護岸（普段、私達が「土手」と呼んでいる高く盛り土した堤防）の工事が中心となっています。低水護岸工事では、川岸から中央部へ約十六メートルのと

ころに鋼矢板を打ち込み盛り土をして埋め立てます。埋め立てには、浚渫した土と川崎側の競馬練習場前の川岸を掘削した土を使うことになっています。高水護岸というのは現在の堤防（土手）の部分です。ここは高さは変わりませんが、幅が広がり、傾斜も緩くなります。現在、堤防の上の車道は交通量が



河川敷が広がります



「亀の甲」と呼ばれた水制

多く、側道が無いため、とても危険な状態が続いています。工事後は、車道と並行して歩道が設けられるため、格段に安全性が高まると期待されます。また、広がった河川敷には、今までもおりサイクリング道路と岸辺散策路が作られることになっていきます。今後、私たち地域住民の憩いの場としての多摩川はますます快適になることでしょう。

## 地域史を学ぶ場としても

ところで、この春の工事で埋め立てられた区間には、亀の甲と呼ばれる歴史的構造物がありました。勢いよく流れ下ってきた多摩川はこの付近の湾曲部で川岸に直接激しくぶつかり、川岸を侵食、破損させてしまいま

す。それを防ぐために水中に杭木を打ち込み、横木を通して、四角に囲った中に石を詰め込んだものです。これは水制工といわれ、テトラポットが登場する以前の治水工法の一つで、湾曲部の流速を緩衝する役目を果たしていました。前述の下流域改修工事のときに造られたものと推測され、全部で四箇所ありました。埋め立てるに先立って、詳しい調査がなされ、取り壊される前の二月十一日には見学会も催されました。工事後は、ここにモニメントと説明板を作ることにしています。地域史の学習の場としても利用されていくことでしょう。

取材協力 国土交通省京浜河川事務所田園調布出張所  
取材 都築・星野・多田委員

## 自治会紹介

トミン多摩川二丁目自治会

宮越 義昭

トミン多摩川二丁目自治会沿革  
トミンタワー多摩川二丁目26  
号棟(二十五階建、三百九十三  
戸)

トミンハイム多摩川25号棟  
(九階建、六十二棟)

トミンハイム多摩川二丁目27  
号棟(五階建、二十戸)

合計四百七十五戸

東京都住宅供給公社の賃貸住宅  
で平成十年八月入居

多摩川二丁目の東端、西六郷に  
隣接し、元昭和電工研究所跡地  
2200万㎡

自治会設立平成十二年四月一日

蒲田西地区自治会連合会加盟  
平成十二年九月

当団地の自慢は何と言っても  
眼の前をゆったりと流れる多摩  
川です。河川敷には野球場、サッ  
カー場、凧揚げなどができる芝  
生の大広場があります。また対  
岸には競馬練習場があつて毎朝  
早くから訓練競馬を楽しめます。  
その先の遠くの山並みの中に富  
士山を望むことができます。更  
に大田区一の高さを誇る二十五  
階建てのトミンタワーの屋上か

らは東京都庁を始めとする新宿  
高層ビル群、東京タワー、羽田  
空港等が一望できます。目玉は  
毎年八月十五日の大田区花火大  
会で、リビングで一杯飲みなが  
ら大輪の連発花火を楽しむこと  
ができます。

しかし、この景観を誇るトミ  
ンタワーにもその高さ故の弱点  
もあります。地震と火災です。  
先の千葉県北西部地震の時の揺  
れは相当に激しく、エレベーター  
が夕方五時から翌朝迄止まっ  
てしまったのです。この時ばかり  
は足頼りしかありません。又、  
一昨年は二十階で火災が発生し  
ました。幸い大事には至りませ  
んでしたが、いっどこで生ずる  
か判らないのが地震と火災です。  
それに備えて、毎年十月に防災  
訓練を行い、特にはしご車によ  
る救助訓練、屋上ヘリポートの  
見学等に力を入れています。  
居住者の皆さんが明るく楽し  
く生活できるよう、フリーマー  
ケット、ラジオ体操、もちつき  
大会等を行っております。又構  
内にフラワープランターを沢山  
置いて、季節の草花を咲かせて、  
環境美化に力を入れております。  
会員の皆様の暖かい協力が何  
よりの力となっております。

## 投稿記事募集!

前回、投稿記事の募集をいた  
しましたが、残念ながら投稿の  
数が少なかつたため、再度、募  
集いたします。

旅の思い出、身近なエピソード  
など、原稿をお寄せください。

### 投稿要項

内容 ジャンルは問いません  
文字数 四百字詰原稿用紙一枚  
または二枚

署名 実名あるいはペンネーム  
投稿先 事務局まで

投稿の際は住所、氏名、電話番  
号を明記してください。

皆様からの投稿を心より、お  
待ちいたしております。

今後とも、皆様と共に楽しい  
紙面づくりをしていきたいと思  
います。

## 編集後記

今回のわがまちの顔では、提  
灯業という、今ではなかなか目  
にするのできない伝統工芸  
を伝承する、斉藤勲さんをご紹  
介しました。提灯だけでなく、  
賞状等も書かれていたとのこと  
で、あなたのご自宅にある賞状  
も、もしかすると齋藤さんの手  
によるものかもしれません。こ  
れからもどうかお元気で、頑張っ  
てください。

特集ではシリーズ多摩川第五  
弾として、堤防強化工事を取り  
上げました。潤いと同時に脅威  
も与えてくれる川ですが、今回  
の工事で安全になり、より親し  
みと潤いを増す存在になるでし  
ょう。

最後に町会紹介はトミン多摩  
川二丁目自治会でした。今回で  
全十七回に渡った町会紹介は終  
わりです。

皆様の投稿をお待ちしており  
ます。

情報紙に対するご意見・ご感想な  
どを事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所  
大田区西蒲田七十一二一七  
(三七三二) 四七八五

## 蒲田西特別出張所管内

人口	男	29,453人
	女	27,156人
	計	56,609人
世帯	29,498世帯	

平成17年11月1日現在